

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



GSC022-12

会場:301A

時間:5月23日 11:30-11:45

親子対象フィールドセミナー「地球教室」 Fieldwork-oriented seminars for children and their parents

桂田 祐介^{1*}, 東田 和弘¹, 西本 昌司², 松田正道², 古川 邦之³, 吉田 英一¹

Yusuke Katsurada^{1*}, Kazuhiro Tsukada¹, Shoji Nishimoto², Masamichi Matsuda², Kuniyuki Furukawa³, Hidekazu Yoshida¹

¹名古屋大学, ²名古屋市科学館, ³愛知大学

¹Nagoya University, ²Nagoya City Science Museum, ³Aichi University

地球科学という学問分野は、46億年の歴史をもつ地球について総合的に解明しようという学問である。この学問分野は、地球環境や自然災害、鉱産資源分野と直結しているため、人類の生き残りをかけて現在と未来の地球を考える上で不可欠な分野と言える。現在大きな社会問題となっている「子どもの理科離れ・自然離れ」の原因は、子ども達ではなくて自然を教えることができない大人にあるのではないかと。今求められるのは、親子ともに自然に触れて学問の面白さを体感することではないかと。こうした考えから、名古屋大学博物館が、地球科学を題材にして、初等・中等教育のプロである名古屋市科学館と連携して始めたのが、親子対象フィールドセミナー「地球教室」である。

地球教室は、平成17年度後半に独立行政法人科学技術振興機構(JST)による研究者情報発信活動推進モデル「モデル開発」の採択を受けて本格的に開始され、翌平成18年度には岐阜県の地質露頭を教材にしたコンテンツを多数開発した。JSTによる助成終了後の平成19年度以降は、実施回数と内容を限定して主に自己財源によって運営している。現在は、愛知大学等の協力も得て、年に4回(各学期および夏休み期間)実施している。各回とも、事前学習・現地学習・事後学習の3タイプの学習を基本構成とし、2日間の日程で実施している。それぞれのコンテンツは毎回のアンケート調査から改良を続け、毎年1回は新規に教材を開発している。

名古屋大学博物館と名古屋市科学館におけるA4判チラシの配布とウェブサイトによる広報が中心である。平成18・19年度は、名古屋市内の小中学校へのチラシ配布も行っていた。現在は、名古屋大学博物館の企画・特別展の案内とともに市の文教施設等に配布している。時折可能となる新聞紙面での広報が効果をあげており、近年は毎回2~5倍程度の抽選倍率になっている。なお、これまでに最多の応募があった平成21年度第4回は、定員30名に対して最大242名の応募数であった。

現在は、名古屋大学の教員1名と非常勤研究員1名、名古屋市科学館の学芸員1名と社会教育主事1名、愛知大学の教員1名が中心になって運営している。この運営メンバーに加えて、当日には臨時スタッフとして他の教員やアルバイト数名、学生ボランティア数名(平成21年度より愛知大学における一般教育プログラムの一環として参加)が実施にあたっている。

本格実施から5年が経過した地球教室は、自然と触れながら学問の面白さを伝える次世代教育の試みとして、ようやく軌道に乗ったところである。地球教室では、研究者と教育者の両方の視点からコンテンツを開発・改良し、質の高いアウトリーチ活動として完成度を高めることを目指している。これまでの成果は、例えば名古屋大学博物館国際フォーラム(平成18年)、全国科学館連携協議会研修会(平成19年)、Asia Pacific Network of Science and Technology Centres Conference(同年)などで報告・実演され、先達・同業者からの批評を受けて改善してきた。また一方で、学生ボランティアの参加実績に見られるように、参加者へのアウトリーチ活動としてのみでなくスタッフ側の人材育成としても、その次世代教育の内容が展開しつつある。